

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670101652		
法人名	社会福祉法人 すだち会		
事業所名	すだち会 グループホーム		
所在地	徳島県徳島市大原町余慶71番地の2		
自己評価作成日	平成22年6月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3670101652&amp;SCD=320">http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3670101652&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成22年8月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は緑豊かな住宅地に位置し、周辺を水田に囲まれている。近くの公園から子どもたちの遊ぶ声が聞こえてくる。リビングの陽だまりのなかで利用者は集い、大きな窓から移りゆく四季を楽しんでいる。職員は笑顔を忘れず穏やかに接して、利用者が安心して生活できるように努めている。利用者一人ひとりが笑顔で生き生きと過ごせるように、家族や地域の方、運営推進会議の参加者などと協力しながら一日一日を大切に支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は「地域の中で笑顔と安心に満ちた毎日」を理念に掲げている。職員は利用者寄りきつたケアに取り組み、安心できる馴染みの関係を築いている。管理者と職員は、地域密着型サービスの意義を十分に理解し、日ごろから研鑽に励んでいる。利用者や家族との関係づくりだけでなく、運営推進会議に近所の方や交番へも参加を呼びかけて地域との交流に積極的に取り組んでいる。利用者や家族の意向の把握に努め、職員間の気づきや意見を運営に活かしている。また、利用者の尊厳を重視し、言葉による拘束について職員間で話し合っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員でつくりあげた事業所独自の理念を、毎朝の引き継ぎ時に唱和している。また、全体ミーティング等で、理念や基本方針を再確認し、理念に基づいて地域とより良い関係を築けるよう実践に取り組んでいる。	全職員で話し合い、地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくっている。毎朝、ミーティング時に唱和し、管理者と職員が一体となってケアにつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	庭での花火や研修、ボランティアなどの来訪の前には、利用者と職員と一緒に地域の方を訪問し、参加を呼びかけている。小学校の廃品回収に毎回参加したり、学校側からも来訪や発表会などへの招待がある。	事業所の行事に参加を呼びかけたり事業所で育てた野菜をおすそわけするなどして地域の方との交流に積極的に取り組んでいる。また、近隣の小学校の廃品回収に参加したり、事業所見学を受け入れるなど交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症や事業所の取り組みに関するパンフレットを作成し配布している。小学生による事業所探検や交流会を通して、父兄や地域の方々にも事業所について知ってもらえるように働きかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所の取り組みや改善課題、評価結果について、報告や話し合いを行っている。全職員が記録を共有して、サービスの質の向上に努めている。	事業所からの報告や改善課題、評価結果、防災訓練について話し合い、出された意見をサービスの質の向上に活かしている。地域の理解や支援を得るため、交番にも参加を呼びかけている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	要介護認定等の更新手続きや運営推進会議の議事録提出時等に、質問や相談を頻繁に行い、気軽に話し合える関係を築いている。	定期的に行う要介護認定等の更新手続きや「自己評価及び外部評価結果」等を市担当窓口へ持参し、担当者と協力関係を築けるよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開いて全職員が身体拘束をしないケアを理解し、実践している。また、鍵をかけることの弊害を理解し、見守りや言葉かけを行って利用者一人ひとりの状態を把握し、施錠しない暮らしを心がけている。	管理者や職員は、ミーティングや研修会を行い、身体拘束をしないケアを実践している。また、言葉による拘束等、見えない拘束についても十分に理解し、身体拘束をしないケアの実践に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員で学ぶ機会を持ち、虐待の防止を徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が地域包括支援センター主催の勉強会に出席して学んだことを全職員に伝えたり、家族会で話し合ったりして、広く周知を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約の申し出があったときには、本人や家族と話し合う時間を十分に持ち、理解を得て納得してもらえるよう、配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は利用者と常に言葉を交わし、要望を引き出すことに努めている。また、家族の面会や行事の時には声をかけ、気軽に希望や意見を話してもらえる雰囲気づくりを心がけている。玄関に意見箱を設置したり外部の苦情相談窓口のポスターを掲示して周知している。	職員は、日ごろの会話やケアの中から利用者の思いや意向を把握し、話しやすい環境づくりに努めている。家族の来訪時には必ず声かけを行い、家族との会話や表情から希望や意向を把握できるよう心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼や週1回のケア会議、月1回の全体ミーティングの際に意見や提案を出し合い、事業所の運営に反映させている。	職員の意見やケア課題についてケア会議やミーティングを行って話し合い、日ごろのケアに活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、向上心を持って働ける環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修情報を収集し、職員の段階に応じて受講できる機会をつくっている。研修内容はミーティングで発表している。報告書を全職員で回覧して共有し、日ごろのケアの中で実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本認知症グループホーム協会徳島県支部に加入し、研修会等に積極的に参加している。また、同業者との交流を通して勉強し、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と面談したり見学に来ていただいたりして、十分に話をしたうえで、納得して利用してもらえるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からも十分に話を聞き、安心して利用してもらえるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたり面談した時に、本人や家族の思い、状況等を確認して他のサービスの紹介も含め、事業所としてできる限りの対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩である利用者から、礼儀作法や調理、家庭菜園での作業方法を教えてもらう機会が多くある。また、ねぎらいの言葉をかけ合うなど、生活のパートナーとしての関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に近況報告をしたり、行事に参加してくれた時には楽しい時間をともに過ごしてもらえるよう配慮している。職員は家族とともに喜び、悩みながら、本人を支えられるような関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前に利用していた事業所へ行って懐かしい人と楽しい時間を持ったり、行きつけの美容院やスーパーに出かけたり、住んでいた家を見に行くなど、これまでの関係が持続できるよう配慮している。	入居前に利用していた他の介護サービス事業所を訪問したり、馴染みの美容院やスーパーを利用している。利用者の希望する外出支援を積極的に行い、馴染みの関係を継続できるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やレクリエーション等の時には、職員が利用者の中に入って一緒に過ごし、一人ひとりが孤立しないよう見守り、利用者同士の関係がうまくいこう支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移った方に会いに行ったり、本人や家族に手紙を出したりして、関係を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者ごとの担当職員が中心となって、本人や家族の意向、要望を聞いたり、日ごろの何気ない会話の中から生活への思いや希望の把握に努めている。また、全体ミーティングを行って全職員で情報を共有し、日々の支援に反映している。	職員は、利用者一人ひとりの日ごろの会話や表情から希望や意向を汲み取るよう努めている。「お誕生日外出」を企画し、利用者の誕生日には希望する場所に出かけたり、希望どおりの過ごし方をしてもらえるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者を理解し、生活のパートナーとして一緒に暮らしていくためにはアセスメントが重要であることを入居時に説明して本人や家族に納得してもらい、生活歴やなじみの暮らし、入居に至るまでの経過を詳細に聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日ごろの生活の中から、生活リズムや本人のペースをつかみ、一日の過ごし方や心身の状態、残存能力など、有する力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成時には本人や家族の希望、意見を取り入れ、日ごろの職員の気付きやアイデアを出し合って検討している。毎月、評価と課題分析を行い、計画が常に現状に即したものとなるよう、随時、見直している。	利用者がより良い暮らしが送れるよう本人や家族の希望・意見を反映した介護計画を作成している。また、日ごろのケアから気づいたことやアイデアを検討して、現状に応じた介護計画になるよう随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を作成し、バイタルチェックや一日の行動、職員の気付きなどを、全職員が共有できるようにしている。介護計画の見直しにも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や外出、外泊などは、本人や家族の要望、状況に応じて柔軟に対応している。短期利用型共同生活介護による在宅の利用者への支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員から地域や公民館での行事の情報を教えてもらったり、小学生やボランティアとの交流、消防署との協力、地域のケアマネジャー等から意見を出してもらうなどし、利用者が地域の中で安心して暮らせるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する医療を受けられるよう支援し、受診時は家族や職員が付き添っている。	本人や家族が希望するかかりつけ医を受診できるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、利用者一人ひとりの体調や些細な表情の変化を見逃さないよう見守り、早期発見に心がけて訪問看護師やかかりつけ医、看護師に相談しながら、健康管理や医療支援につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時は頻繁にお見舞いに行き、状態を確認したり担当医や看護師と情報交換を行っている。退院に向けた相談についても同様に対応して、本人や家族の不安を軽減できるよう配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方などについて本人や家族の意思や希望に沿って、随時、一人ひとりの状態に合わせて話し合い、関係機関と連携を図りながら対応している。	入居時には、重度化した場合の医療連携体制についての説明を行うとともに、本人や家族の思いを理解したうえで支援している。また、訪問看護師が週1回来訪し、事業所ができる最大限の支援体制を築いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に、あわてず確実に適切な対応ができるように、マニュアルを作成している。研修を受講した職員が中心となって、勉強会や訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、利用者とともに、火災や地震などのさまざまな災害の場所や時間帯を想定して、避難訓練を行っている。消防署の協力を得て実施する防災訓練には、地元住民の参加もあり協力体制を築いている。	災害時のマニュアルを整備し、毎月1回は利用者とともに火災訓練を行っている。今年度は、様々な災害を想定した訓練を行い、地域住民や運営推進会議、消防署の参加協力を得て実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重やプライバシーの確保についての研修を行い、高齢者への対する尊厳の気持ちを大切に接するよう心がけている。日々のケアの中で馴れ合いにならないよう、職員間で常に話し合いながら、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない対応ができるよう気をつけている。	全職員は、利用者の人格を尊重したケアを理解し、プライバシーの確保についても徹底している。特に、日ごろのケアのなかで馴れ合いにならないように注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者のつぶやきや表情、しぐさなどから思いをくみ取り、自分で決めたり納得できるよう、一人ひとりに合わせた言葉かけや支援方法で働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大事にし、時間にとらわれず、体調や希望にそった暮らしが送れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日ごろの身だしなみや外出時のおしゃれなど、本人が選んだり家族や職員と話し合ったりしながら、その人らしさを保てるよう支援している。また、馴染みの美容院や訪問理美容を利用し、個性を大切に、個別の支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、季節の食材を使った食事を工夫している。職員も一緒に会話をしながら、食卓を囲んでいる。おやつや材料や果物類と一緒に買いに行ったり、献立作りや野菜の収穫、食材の仕上げ、下ごしらえやテーブル拭き、後片付けなど、それぞれのできる力を活かした支援を行っている。	肉や魚、野菜などの主な食材は配達してもらっているが、他の食材の買い物や菜園の野菜の収穫など食事に関する作業を職員と一緒にやっている。利用者にとって食事が楽しみなものとなるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同一法人の他事業所の管理栄養士が作成した献立を参考にし、栄養バランスに配慮した食事を提供している。一人ひとりの状態に応じた支援ができるよう摂取量を記録し、変化時にはかかりつけ医の指示を受け、形態や支援方法を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態や力に応じた支援を行っている。毎週1回、歯科衛生士の指導を受けながら口腔内の清潔に気をつけている。		

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価	外部評価	
			ユニット 1		
			実践状況	実践状況	
			次のステップに向けて期待したい内容		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の確認や職員間での情報共有などによって、一人ひとりの力や排泄パターンを把握している。さりげない言葉かけを行ってできるだけ失敗を減らし、気持ちよく過ごせるよう支援している。	利用者の行動や排泄パターンを把握し、ケア会議で話し合っ一人ひとりに応じた支援をしている。自尊心に配慮し、さりげないトイレ誘導をするなど、できるだけオムツを使用しない自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立に大豆や野菜、海藻類を多く取り入れ、水分や乳製品の摂取にも努めている。また、毎朝の体操や歩行、散歩など身体を動かすことも勧めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者一人ひとりの希望に合わせ、安心して入浴できるよう配慮している。仲の良い利用者同士が一緒に入ったり、足浴やシャワー浴など、個々の希望に応じて支援している。	利用者の希望に応じた入浴の支援を行っている。水虫のある人には、足浴を行うなどして一人ひとりに合わせた入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの生活パターンを重視し、消灯や室温は利用者の状況や体調に合わせた支援を心がけている。夜間は1時間ごとに巡視をし、安心して眠れるよう見守っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の管理の大切さを理解しており、個々の説明書により把握するよう心がけ、服薬時には間違いのないよう責任者が確認している。薬の変更があるときには、細やかな状態観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの希望や能力を把握して掃除やカーテンの開閉、食事準備などの役割を担っていただき、達成感や満足感につながるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ、買い物、他事業所の催し物、通院など、その日その日の希望にそった外出を支援している。誕生日に本人が行きたいところへ出かける企画では、特に「希望が叶う」と喜ばれている。	散歩や買い物、ドライブ、近くの介護サービス事業所の行事などに参加し、積極的に外出を支援している。また、利用者一人ひとりの誕生日には本人の希望を聞き、行きたい場所へ出かけられるよう企画している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの能力や希望にあわせて金銭を所持してもらったり、買い物の際に使用してもらったりして、社会とのつながりを維持できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人にお便りを出すために、ハガキやペンを用意し、内容のアドバイスなどを行っている。また、電話を取次ぎ、大切な人との交流を続けられるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やトイレ、リビングには季節を感じられるように、花や飾りを置いている。陽当たりの良い明るいリビングでは、食事作りの音や匂いが感じられ、皆が集まりやすくゆったり居心地よく過ごせるよう気をつけている。	共有空間には大きな窓のリビングルームがあり居心地よく過ごすことができる。季節の花やゆったりできる大きなソファ、季節に応じた利用者の塗り絵作品の展示等がある。五感で感じることのできる空間づくりができています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳コーナーやリビング、廊下等に配置したソファでは、ゆったりと一人でくつろいだり気の合う利用者同士が居心地良く過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、ダンスやベッド、テレビ等使い慣れた家具や馴染みの品を持ってきてもらえるよう説明し、家族の協力を得ている。居室には写真やポスター、花などを飾り、本人が安心して過ごせるような雰囲気づくりに気をつけている。	各居室には、利用者が使い慣れた家具を持ち込んだり趣味のポスターを貼っている。また、家族の写真や季節の花など、利用者が家庭的な雰囲気を感じられるよう利用者一人ひとりにとってかけがえない空間づくりができています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	利用者一人ひとりの“できる力・わかる力”を把握し、それぞれに合った方法での最小限の支援で、できるだけ自立した生活を安全に送ってもらえるよう心がけている。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員でつくりあげた事業所独自の理念を、毎朝の引き継ぎ時に唱和している。また、全体ミーティング等で、理念や基本方針を再確認し、理念に基づいて地域とより良い関係を築けるよう実践に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	庭での花火や研修、ボランティアなどの来訪の前には、利用者と職員と一緒に地域の方を訪問したり、参加を呼びかけている。小学校の廃品回収に毎回参加し、学校側からも来訪や発表会などへの招待がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症や事業所の取り組みに関するパンフレットを作成し配布している。小学生による事業所探検や交流会を通して、父兄や地域の方々にも事業所について知ってもらえるように働きかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所の取り組みや改善課題、評価結果について、報告や話し合いを行っている。全職員が記録を共有して、サービスの質の向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	要介護認定等の更新手続きや運営推進会議の議事録提出時等に、質問や相談を頻繁に行い、気軽に話し合える関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開いて全職員が身体拘束をしないケアを理解し、実践している。また、鍵をかけることの弊害を理解し、見守りや言葉かけを行って利用者一人ひとりの状態を把握し、施錠しない暮らしを心がけている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員で学ぶ機会を持ち、虐待の防止を徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が地域包括支援センター主催の勉強会に出席して学んだことを全職員に伝えたり、家族会で話し合ったりして、広く周知を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約の申し出があったときには、本人や家族と話し合う時間を十分に持ち、理解を得て納得してもらえるように配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は利用者と常に言葉を交わし、要望を引き出すことに努めている。また、家族の面会や行事の時には声をかけ、気軽に希望や意見を話してもらえる雰囲気づくりを心がけている。玄関に意見箱を設置したり外部の苦情相談窓口のポスターを掲示して周知している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼や週1回のケア会議、月1回の全体ミーティングの際に意見や提案を出し合い、事業所の運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、向上心を持って働ける環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修情報を収集し、職員の段階に応じて受講できる機会をつくっている。研修内容はミーティングで発表している。報告書を全職員で回覧して共有し、日ごろのケアの中で実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本認知症グループホーム協会徳島県支部に加入し、研修会等に積極的に参加している。また、同業者との交流を通して勉強し、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と面談したり見学に来ていただいたりして、十分に話をしたうえで、納得して利用してもらえるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からも十分に話を聞き、安心して利用してもらえるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたり面談した時に、本人や家族の思い、状況等を確認して他のサービスの紹介も含め、事業所としてできる限りの対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩である利用者から、礼儀作法や調理、家庭菜園での作業方法を教えてもらう機会が多くある。また、ねぎらいの言葉をかけ合うなど、生活のパートナーとしての関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に近況報告をしたり、行事に参加してくれた時には楽しい時間をともに過ごしてもらえるよう配慮している。職員は家族とともに喜び、悩みながら、本人を支えられるような関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前に利用していた事業所へ行って懐かしい人と楽しい時間を持ったり、行きつけの美容院やスーパーに出かけたり、住んでいた家を見に行くなど、これまでの関係が持続できるよう配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やレクリエーション等の時には、職員が利用者の中に入って一緒に過ごし、一人ひとりが孤立しないよう見守り、利用者同士の関係がうまくいくよう支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移った方に会いに行ったり、本人や家族に手紙を出したりして、関係を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者ごとの担当職員が中心となって、本人や家族の意向、要望を聞いたり、日ごろの何気ない会話の中から生活への思いや希望の把握に努めている。また、全体ミーティングを行って全職員で情報を共有し、日々の支援に反映している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者を理解し、生活のパートナーとして一緒に暮らしていくためにはアセスメントが重要であることを入居時に説明して本人や家族に納得してもらい、生活歴やなじみの暮らし、入居に至るまでの経過を詳細に聞くようになっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日ごろの生活の中から、生活リズムや本人のペースをつかみ、一日の過ごし方や心身の状態、残存能力など、有する力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成時には本人や家族の希望、意見を取り入れ、日ごろの職員の気付きやアイデアを出し合って検討している。毎月、評価と課題分析を行い、計画が常に現状に即したものとなるよう、随時、見直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を作成し、バイタルチェックや一日の行動、職員の気付きなどを、全職員が共有できるようにしている。介護計画の見直しにも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や外出、外泊などは、本人や家族の要望、状況に応じて柔軟に対応している。短期利用型共同生活介護による在宅の利用者への支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員から地域や公民館での行事の情報を教えてもらったり、小学生やボランティアとの交流、消防署との協力、地域のケアマネジャーから意見を出してもらうなどし、利用者が地域の中で安心して暮らせるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する医療を受けられるよう支援し、受診時は家族や職員が付き添っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、利用者一人ひとりの体調や些細な表情の変化を見逃さないよう見守り、早期発見に心がけて訪問看護師やかかりつけ医、看護師に相談しながら、健康管理や医療支援につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時は頻繁にお見舞いに行き、状態を確認したり担当医や看護師と情報交換を行っている。退院に向けた相談についても同様に対応して、本人や家族の不安を軽減できるよう配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方などについて本人や家族の意思や希望に沿って、随時、一人ひとりの状態に合わせて話し合い、関係機関と連携を図りながら対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に、あわてず確実に適切な対応ができるように、マニュアルを作成している。研修を受講した職員が中心となって、勉強会や訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、利用者とともに、火災や地震などのさまざまな災害の場所や時間帯を想定して避難訓練を行っている。消防署の協力を得て実施する防災訓練には、地元住民の参加もあり協力体制を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2	実践状況	実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重やプライバシーの確保についての研修を行い、高齢者への尊厳の気持ちを大切に接するよう心がけている。日々のケアの中で馴れ合いにならないよう、職員間で常に話し合いながら、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない対応ができるよう気をつけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者のつぶやきや表情、しぐさなどから思いをくみ取り、自分で決めたり納得できるよう、一人ひとりに合わせた言葉かけや支援方法で働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大事にし、時間にとらわれず、体調や希望にそった暮らしが送れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日ごろの身だしなみや外出時のおしゃれなど、本人が選んだり家族や職員と話し合ったりしながら、その人らしさを保てるよう支援している。また、馴染みの美容院や訪問理美容を利用し、個性を大切に、個別の支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、季節の食材を使った食事を工夫している。職員も一緒に会話をしながら、食卓を囲んでいる。おやつや材料や果物類と一緒に買いに行ったり、献立作りや野菜の収穫、食材の仕分け、下ごしらえやテーブル拭き、後片付けなど、それぞれの力を活かした支援を行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同一法人の他事業所の管理栄養士が作成した献立を参考にし、栄養バランスに配慮した食事を提供している。一人ひとりの状態に応じた支援ができるよう摂取量を記録し、変化時にはかかりつけ医の指示を受け、形態や支援方法を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態や力に応じた支援を行っている。毎週1回、歯科衛生士の指導を受けながら口腔内の清潔に気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の確認や職員間での情報共有などによって、一人ひとりの力や排泄パターンを把握している。さりげない言葉かけを行ってできるだけ失敗を減らし、気持ちよく過ごせるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立に大豆や野菜、海藻類を多く取り入れ、水分や乳製品の摂取にも努めている。また、毎朝の体操や歩行、散歩など身体を動かすことも勧めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者一人ひとりの希望に合わせ、安心して入浴できるよう配慮している。仲の良い利用者同士が一緒に入ったり、足浴やシャワー浴など、個々の希望に応じて支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの生活パターンを重視し、消灯や室温は利用者の状況や体調に合わせた支援を心がけている。夜間は1時間ごとに巡視をし、安心して眠れるよう見守っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の管理の大切さを理解しており、個々の説明書により把握するよう心がけ、服薬時には間違いのないよう責任者が確認している。薬の変更があるときには、細やかな状態観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの希望や能力を把握して掃除やカーテンの開閉、食事準備などの役割を担っていただき、達成感や満足感につながるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ、買い物、他事業所の催し物、通院など、その日その時の希望にそった外出を支援している。誕生日に本人が行きたいところへ出かける企画では、特に「希望が叶う」と喜ばれている。		



自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの能力や希望にあわせて金銭を所持してもらったり、買い物の際に使用してもらったりして社会とのつながりを維持できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人にお便りを出すために、ハガキやペンを用意し、内容のアドバイスなどを行っている。また、電話を取次ぎ、大切な人との交流を続けられるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やトイレ、リビングには季節を感じられるように、花や飾りを置いている。陽当たりの良い明るいリビングでは、食事作りの音や匂いを感じられ、皆が集まりやすくゆったり居心地よく過ごせるよう気をつけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳コーナーやリビング、廊下等に配置したソファでは、ゆったりと一人でくつろいだり気の合う利用者同士が居心地良く過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、タンスやベッド、仏壇など使い慣れた家具や馴染みの品を持ってきてもらえるよう説明し、家族の協力を得ている。居室には写真やポスター、花などを飾り、本人が安心して過ごせるような雰囲気づくりに気をつけている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの“できる力・わかる力”を把握し、それぞれに合った方法での最小限の支援で、できるだけ自立した生活を安全に送ってもらえるよう心がけている。		